

木本議員 皆さん、おはようございます。5番木本千代子です。議長の許可をいただきましたので、通告書に従いまして、これより一般質問をさせていただきます。私の公約の一つであります「みんなで作る活気ある牟岐町」の中から、「誰でも提案制度」が行えるために、『町民・行政・議員と意見交換をする場を設けて牟岐町民がやりたいことを実現するためのサポートをする仕組み作り』を実現するために、町民・行政・議員との牟岐町の未来ビジョンについて、アイデアや意見交換をする場を作り、町民から寄せられた意見で住民・行政・議員との円滑な地域コミュニケーションの促進に寄与することが期待されると思うが、いかがなものでしょうか。以下の要旨で質問させていただきます。質問1、住民、行政、議員が参加するためのフォーラムやワークショップで意見交換を設けることによって、さまざまな新しいアイデアが出て町が活性化すると思いますが、町の方針をお聞かせください。2、このような場が提供されることで期待される地域社会の利益や成果について、行政の立場からの見解をお聞かせください。3、住民参加を促進するための具体的な対策や取り組みについて、今後の計画やアクションについて教えてください。以上です。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 皆さん、おはようございます。木本議員の住民・行政・議員との意見交換をする場を設けては。のご質問にお答えします。牟岐町の未来ビジョンなどについて、住民・行政・議員が参加し、アイデアや意見交換する場を設ける計画はありますかとのことですが、本町では、将来に向けての持続可能なまちづくりのため、最上位計画である牟岐町総合計画をはじめ、牟岐町総合戦略を策定しています。策定にあたりましては、行政・議会・各種団体・有識者の方々にご参加をいただき、未来の目標及び取り組みの策定を行ってまいりましたので、住民参加の重要性を認識し、住民参画のまちづくりの推進は図られていると思っています。議員が提案する内容は、牟岐町総合計画及び牟岐町総合戦略にも掲げている協働のまちづくりに近いものと思われま。協働におけるメリットとしては、議員ご指摘のとおり交流が図れることや町民のニーズを知り住民目線で意見がいただけるため、行政では気づかず手の届かなかった細かなサービスを提供できる可能性がある、住民自治の意識が高揚するなどの点があります。デメリットとして

は、「住民参画」では計画に対して町民の意見を反映することに重きを置き、実際に実行するのは行政ですが、「協働」とパートナーとなる町民と行政がそれぞれに責任を持ち、計画段階から実行に至るまで行動をするため、行政との協議調整に時間がかかる、行政の型にはまってしまうなどの点があります。本町では、「協働のまちづくり」を取り組むべき計画として位置づけしていますが、「住民参画」の取り組みが精一杯のところがあり、「協働」のまちづくりまで取り組めていないのが現状です。次回の牟岐町総合戦略見直しの際には、有識者に若者や移住者などの参加も検討し、可能な限り「協働」のまちづくりを推進して参りたいと考えていますので、議員の皆様をはじめ各種団体、町民の皆様には今後ともご協力をよろしく申し上げます。以上です。

喜田議長 西沢企画政策課長。

(西沢企画政策課長 登壇)

西沢企画政策課長 企画政策課からは、先ほどの木本千代子議員のご質問に対する町長の答弁について補足をします。牟岐町では、第2期総合戦略から、国の交付金を活用し、関係人口の拡大に取り組んでおり、令和5年度から新たに、デジタル田園都市国家構想・地方創生推進交付金、地方創生推進タイプを活用し、「若者の人材循環を起点としたまちづくりプロジェクト」として、「牟岐の場」創出事業を行っており、牟岐ふるさと会、若者人材、都市部人材が地域課題に対して、多様な視点から論議し、解決を目指すためのイベント、規格等を行っています。また、県南キャンパス事業を活用した、JAかいふ等の町内事業者や牟岐町観光協会、NPO法人牟岐キャリアサポートと連携し、牟岐町の未来に向けたディスカッションや活動を行っており、そういった若者たちのアイデアを生かせるような事業を展開しています。コロナの影響でなかなか開催が難しい時期もありましたが、令和3年2月は海の総合文化センター、3月は旧牟岐小学校のカフェ室で、牟岐みらい会議が開催され牟岐町出身者や牟岐町に関わりのある若者、NPO法人ひとつむぎ、一般社財団法人HLABの学生や徳島大学、徳島文理大学、京都産業大学の学生が現地とオンラインのハイブリッド型で1年間の取り組みや成果報告ならびに意見交換を実施するとともに「戦略BBQ」と題したワークショップを行っています。牟岐みらい会議には、牟岐町からは、町長、副町長、町職員その他、牟岐町議会議員の皆様にも多数参加していただきました。また、海の総合文化センターでの開催時

には、町民の皆さまに会場の様子をモニターに映して、一般公開を行っています。令和3年度には、牟岐みらい会議の若者が牟岐にぎわい産業祭の企画として、牟岐町長と牟岐みらい会議の若者の意見交換の場を設定し、「牟岐の未来を語り合うトークセッション」を開催しました。また、令和4年度の牟岐にぎわい産業祭では、牟岐町猟友会と徳島大学狩猟サークルがジビエについてのトークセッションを行い、その様子を牟岐にぎわい産業祭に来場された方々にご覧いただきました。なお、先のご紹介した活動は、いずれにおいても、若者たちの自主的な活動であり、また、牟岐にぎわい産業祭においては、主催である牟岐町観光協会の企画により開催されたものです。町は、牟岐町観光協会に補助金を支出することで事業支援を行い、また、若者関係人口の取り組みに対し、国・県の交付金や補助金を活用し、中間支援を行っている牟岐キャリアサポートや町職員が若者関係人口や事業者の方々との協議に共に参加することで、若者たちのアイデアをくみ取り、町内外の活動として関係者や関係機関とつなげるサポートを行っています。その活動をホームページやSNS等で情報発信することにより、こうした関係人口の方々の個々の活動を間接的に支援し、牟岐町に対する思いを持った人々の活動推進や地域課題の共有を行っています。来年2月には牟岐町内で、令和5年度に町内や関西圏等の都市部で行った関係人口若者の活動報告を予定しています。町民の皆さま、議員の皆さまへの一般公開の手法について、現在検討中と聞いていますが、町民の皆さまや議員の皆さまにこうした活動へのご理解・ご協力をお願いします。牟岐町の未来ビジョンの創造は、現在、関係人口の方々の多種多様な取り組みにより、行政主導型ではなく、自主的な取り組みから生まれていることが、牟岐町の魅力であり、そのような活動をこれからも支援しながら、行政としての役割を果たしていきたいと考えています。私からは以上です。

喜田議長 木本議員。

木本議員 町長、西沢課長、ご丁寧なご説明ありがとうございました。これからも地域コミュニケーションが促進していくことを期待しています。ありがとうございました。以上、終わりです。